

ライフ
ストーリー

たそさん

(2022年3月人間福祉学部卒業)

大学時代の心の居場所

<セクシュアリティの自覚>

【たそ氏】

色々あって、今はデミセクシュアル¹というセクシュアリティだと私は思っています。

【インタビュアー】

今はってことはこれまで何か変化を遂げてきたということですね。

【たそ氏】

最初の方はレズビアンだと思ったけど、その後変遷があって、今はデミセクシュアルなのかな？と大学3年ぐらいから思っています。

【インタビュアー】

なるほど。最初にレズビアンかもなと気付いたきっかけは？

【たそ氏】

レズビアンだと気付いたきっかけは、中学の時に友達の子の女の子のことをすごい好きになって、“あれ？女の子なのに好きになっちゃったな”みたいな感じで結構罪悪感を持ったことを覚えています。中学の時はずっと好きだったのでですけど告白できずに、高校とかでもたまに遊ぶぐらいの仲だったのでですけど、どんどん疎遠になっていって、大学時代に自分の中でけりをつけたいなと思って告白して、そのとき初めてカミングアウトしたのですが、フラれてって感じですかね。

告白するまではずっとレズビアンだと思っていた。告白するときはレズビアンだと思って告白して、そのあとサークルとかに入って色々な人としゃべっていくうちに、自分はレズビアンじゃないなと思いました。

¹ 精神的なつながりを感じる相手に対してだけ、性的な欲求を抱くセクシュアリティ(性的指向)のこと。

【インタビュアー】

それはどういうふうにして気付いて。

【たそ氏】

レズビアンの人と喋っているときに、レズビアンの子とかが「自分の好きな女の子はこういうタイプなんだよね」とか、「髪の毛の長い子が好き」とか「ショートカットが一番良いよね」とか、そういう見た目での会話とかをしているときに結局“何か違うな”と思ったというか、やはり私は見た目で人を好きになるタイプではないのかなという。何となく疎外感を覚えたのがきっかけで、自分はレズビアンじゃないのかもしれないなんて思って、色々ネットで調べ始めたのがきっかけです。

<初めてのカミングアウト>

【たそ氏】

初めてカミングアウトしたときは、中学校時代に初めて好きになった女の子に大学時代にカミングアウトして、そのタイミングで告白もしました。中学の時は本当にもうこんなこと言ったらあれなんですけれど、中学の時は両思いだと思っていたのですよ。すごい仲がよかったし、私の中では絶対あっちもお互いに好きだろうという感じがあったので。もしも今がタイミングじゃなかったとしても、あっちも女の子のことを好きなのではないかなと思っていたのですよ。けど、全然違って。カミングアウトしたら「あっそういうセクシュアリティも今あるっていうもんね」みたいな。なんというか、全然自分は違いますよみたいな感じで扱われちゃって、“あれ、何かショックだなあ”と思った記憶がありますね。違ったんだみたいな。あのときでさえ両思いじゃなかったんだ。今だからとかじゃないんだみたいな感じはあったかもしれない。

【インタビュアー】

あっちもね、ビアンだと思ったのに。

【たそ氏】

そう、そう、そう、そう。

あのとき告白していたら少し違ったんじゃないのかなと、まだ未だに思っているぐらいに両思いだった気がする(笑)。

【インタビュアー】

カミングアウトした後、その子との関係性ってどうなっていくのですか？

【たそ氏】

カミングアウトして結局“ああ、そうだったんだ”みたいなことになって、でも、自分は受け入れるよみたいな、何かそういうよく分からない壁を作られたのも感じていました。その後、私から誘ったら変かなと思って誘わなかったのですが、あっちが遊びに誘ってくれたりして2回くらい遊んだのですが、それ以降急にぱったり何も来なくなっちゃって。あっちももう気を遣わなくて良いかなくなっただけでしょうね。もうそれ以降 LINE も来ないし、いつの間にか、4人とかでいつも遊んでいたメンツが居たのですけれども、その中からも少し距離を置かれているような。自分が住んでいるところが遠いからかもしれない(笑)。

【インタビュアー】

遠いからね、誘っても来られないから。

【たそ氏】

だから、誘わなくて良いかなくなっただけだと思うのですけれどね。

でも、前遊んだときとかも私以外としゃべっている感じとかもあったし、最近友達と4人で遊んだときに私以外全員彼氏持ちで、その子も彼氏持ちで、「たそはどうなの？」みたいなことを言われたときに、「いや、ちょっとな」みたいなね。「今、何もないかな」みたいな話をしていて、そうしたら当時告白した友達が、「ほら、最近インスタのストーリーであの女の子と

よく一緒に載せてんじゃん。何かあげてんじゃん」みたいなことを言われたときに、すごい嫌な気持ちになって。そんな、私が普通によく遊んでいる友達のことを女友達としか思っていないのに、誰でもよく遊んでいる女の子のことを好きになっていると思っているのかと思うと少しイライラしちゃって“なんやねん”という気持ちになって(笑)。

【インタビュアー】

告白した子以外の仲の良いもう 2 人はセクシュアリティのこと言ってる？

【たそ氏】

言っていないのですよ。「何で言った？」と思ったのですけれど。

ええ？みたいな。周りの 2 人も困惑していたし、“なんで今言う？”みたいな感じに思いましたね。

< どういうときにカミングアウトする？ >

【たそ氏】

カミングアウトの範囲はやはり恋愛の話とかになると、一回とかだったら全然大丈夫なのですけれど、「好きな人はどんな人？」とか、「今まで付き合った人は？」みたいなそういう話になったときに、すごく仲良くなって何回もそういう話をする間柄になっちゃうと、毎回嘘をつくのがしんどくなっちゃうから、そういう人には言いますね。実はと言うほどでもないけれど、「私はあんまり恋愛とか得意じゃないかも」とか、そういう感じでカミングアウトとも言わないぐらいの感じで言いますね。もう少し仲良くなってきたら、「もしかしたら自分はデミセクシュアルというセクシュアリティかもしれないんだ」みたいな、そういう感じで少し深めのことを言ったりして、最初は浅く反応を見ていって、そこから“この人には言っても大丈夫だな”みたいな場合に深く言っていく感じ。まあ 1、2 回しゃべった人とか、職場の人とか、そもそもそういう恋愛の話をあまりしないだろうなみたいな人には

カミングアウトはしないかなという感じですね。

【インタビュアー】

少し浅めのカミングアウトをして、言っても良いかなというのはどう判断しているのですか？

【たそ氏】

アドバイスとかしてこないかどうかとか、浅めなのとか、「私はあんまり恋愛経験ないし、恋愛のこととかもわかんないんだよね」みたいなことを言ったときに、「こういう場に行けば出会えるよ」みたいなことを言われると、少ししんどいなみたいな。多分今自分がもっと深いカミングアウトをしたとて受け入れにくいというか、「あっそうなんだ」という壁を作られそうな気が、感覚的なものなのですけれどしちゃうかなとか、「それは恋愛経験が少ないからそう思うのだよ」みたいなことを言われたらもうどうしようもないし、自分が説得させられそうになることもあるしなと思うと、自分のほうからもここまでにしておこうみたいなラインがありますね。

<家族へのカミングアウト>

【インタビュアー】

さっき言った「あっそうなんや」みたいな壁を作られるようなリアクションって最初に告白した人もそうだけど、それ以降も何回かそんなリアクションってあった？

【たそ氏】

親とか。親はもっと冷たかったかもしれない(笑)。お母さんにしたのですけど、それは少し嫌だったかな。今時そんな偏見を持っていることが恥ずかしくないのかなというぐらいすごいしっかり目の偏見を持っていて、何か“はあ・・・”みたいな。「私の子どもがまさかそんなだったなんて」みたいなことを言われて。「でも、本当はそうじゃないんでしょ？」みたいな。「嘘

でしょ？」みたいな。「本当は男子のことが好きなのでしょ？」みたいな感じで言われて、「一回女子のことが好きになったとは言っても、それは本当じゃなくて、本当は男子のことが好きで結婚は男子とするのでしょ？」みたいな感じで言われて、“何か言うんじゃないかな”みたいな。

自分でも正直よく分かっていないところが大きいから、だから、説得とか納得とかさせられそうになることも多分多いのですけどね。そういう反応をされるとなんかもうわかんなくなる。本当にそうだったのかなみたいな気持ちにもなっちゃうし、「嘘だったんじゃない？」とか言われると、“嘘？”(笑)。“恋愛感情が嘘？”っていう感じ。

そもそも自分がどっちというか、性別を問わず好きになるみたいなことを言ったから、「だとして別に結婚は男の子ともできるのでしょ？」みたいな、「最終的に男の子と結婚するつもりなのでしょ？」みたいなことを言われて、「それはちょっと分かんない」ってなことを言うと、すごい嫌な顔みたいなのをされて、もう何かミスったなって。やっぱりいう人は考えないといけないなと思って、親とはそんな恋愛の話とかしないのに、就活のタイミングで結婚とかそういう話をする機会があって、それで言っちゃったのですけれど。

【インタビューア】

就活の時に考えなきゃいけなくなったという感じなの？

【たそ氏】

就活の時にサークル(カシス)のことをしゃべったのですよ。サークル長というか、そんな立派なものじゃないけれど、LGBT サークルの代表をやっていましたみたいなね。こういうイベントをやりましたみたいなことを書いていたときに、そういうことを書いていると、LGBTQ の方は落としますみたいな企業はそもそも面談の時点で落とされるから、そういうものの判断にもなるかなと思って書いていたときがあったのですけれど、書いていたら親に「あんたそんなことを書いていたら LGBTQ の人だと思われるよ」みたいなことを言われて(笑)。“そうなんだけど”と思いつつも言えないな

と思って。でも、親がすごいエントリーシートの添削とかやってくれていたのですよ。めっちゃ私の就活を心配して。そのときに何回添削を受けてもLGBTQ のことは書かない方が良くとか、そういうことをめっちゃ言われて、少しムツとしちゃったのですね。そのときにカミングアウトして“ああ、言わなきゃよかった”という感じ。

【インタビュアー】

言いたくてというか、もう言わざるを得なくなったと。

【たそ氏】

そうですね、何かね。自分の存在がそもそもない感じにされているのがすごくしんどくて、就活の話をするタイミングで言ったのですけれど、親の中では未だにカミングアウトがなかったことにされていて。恋愛のことは触れにくそうにしている。なかなか難しいな。

【インタビュアー】

今みたいに帰ったときに結婚は？みたいな話とか、それは全く出ない？

【たそ氏】

全く出なくなった。話にも恋愛のことも全く出なくなって。

【インタビュアー】

カミングアウト以前は結構出てた？

【たそ氏】

めっちゃ出ていたわけじゃないのですけれど、「どんな人がタイプなの？」とか、「今付き合っている人は？」みたいなそういう話とかはあったのですけれど。ゼロ。今不自然なくらいない。もう多分親側がその話はしたくないと思っているのだと私は捉えているのですけれど。

あと、「絶対に私以外の家族には言うな」と言われていて、お母さんに。

言っちゃいけないことだと親は捉えているし、その話を広げたら、もしかしたら自分がカミングアウトするきっかけになっちゃうかもしれないからという意味で多分恋愛の話を振ってこないのだと思います。

【インタビュアー】

なるほどね。お母さんは妹とかお父さんには言わないでねという、そんな釘を刺されたわけだ。

【たそ氏】

そうなんですよね。だから、少しやっばりな、身内って難しいかもしれない。オープンなほうでもオープンにしちゃいけない範囲もあるのかもなか思ったりしますね。

<カミングアウトのノウハウ>

【たそ氏】

ゆっくりゆっくり話す範囲を増やしていく、ぐらいかもしれないですね。最初はあちらの立場でも理解できそうな言葉を選ぶとか「、恋愛経験が少ないんだよね」とか、そういう話から始まって、「あんまり恋愛しない」、「恋愛関係に発展しない」とか、「そういうセクシュアリティもあるんだよね」とか、そういう流れに持って行くとかですかね。

【インタビュアー】

一言で分かってもらいやすいセクシュアリティと、そうではないセクシュアリティがあると思います。その中で、カミングアウトするときに、いきなりデミセクシュアルなのですみたいなカミングアウトをするのかとか、あるいはそうじゃない説明から入っていくことのほうが多いですか？例えば、こっちの世界でもデミセクシュアルですといっても、パッとみんな「ああ、そうなんだ」ってすぐ入ってこなかったりするのかなど。

【たそ氏】

確かに、だけど、本当にそうなのですよ。

まず最初にデミセクシュアルというセクシュアリティがあるのですよという話から。デミセクシュアルは全員知らないと思って私はしゃべっているのですよ。デミセクシュアルというセクシュアリティがあって、そのセクシュアリティはパンセクシュアルと近いという話をして、多分バイセクシュアルの方がみんな知ってると思うのですけれど、バイセクシャルは男性・女性両方好きになるということだけれど、パンは性別にかかわらず好きになるセクシュアリティだよという話をして、パンセクシュアルというセクシュアリティに近いけれど、その中でも人を好きになることがあまりなくて、精神的につながりを持った人とだけ好きになるという、パンの中のセクシュアリティなんだよねという説明を私はしているのですけれど、それが何か正しいのか正直分かっていない、私の中で間違っているかもしれない、パンの中に入れて良いのか分かっていないけれど私はそういう説明をしています。

【インタビュアー】

確かにね。でも、伝わりやすさも一つ大事だし、何か分からないですね。俺もあんまり分からないけれど、パンでありながらかつデミですみたいな位置付けなのかな？

【たそ氏】

そうだと思います。パンでありながらかつデミみたいな。

【インタビュアー】

そうやろな。別にデミであることと、例えば、ヘテロでかつデミですということも成り立つ。

【たそ氏】

成り立ちます。

【インタビュアー】

そうやんな。だから、誰に向くか、誰を好きになるかというよりかその人との関係性が何だろうということが大事なのね。

【たそ氏】

そうなのですよ。関係性とか精神的な、精神的というとあれか。深いつながりを持ってから初めて恋愛関係に発展するみたいな。結構ヘテロの人にも多いと聞きはする。

最近 Tinder(マッチングアプリ)をやっているのですが、こんな話して良いのか分からない。Tinderの中でセクシュアリティを選べるようになっているのです。そこにデミセクシュアルが出てきていて、“ああ、あるんだ”と私も結構びっくりして、ヘテロでデミセクシュアルみたいなものを選択している人も居るし、確かにでも、デミセクシュアルと私が知ったときは知名度が全然低いみたいなきっかけだったから、“あっ結構広がっているのだな”と思って、マッチングする人もデミセクシュアルがたまに居るし。知った当時は本当に私以外いないのかと思っていたぐらいだったから、“あっそんな広がりを見せていたのだな”とか勝手に思ったりしています。

【インタビュアー】

知名度が広がって。

【たそ氏】

とは感じています。実際、でもどうなのだろうな。わかんないですけどね、存在している人をまだ見ていないから。Tinder上でしか見ていないからわかんないけど(笑)。

【インタビュアー】

そうか、リアルな関係性を。

【たそ氏】

デミセクシュアルの人と一回しゃべってみたいかもしれない。

<恋愛に関する経験>

【たそ氏】

これまでの恋愛は失恋したカミングアウトした女の子と、あと、告白されて付き合ったら何か変わるのではないかなと思って付き合った男の子がいましたけれど。まあそれぐらい。だから、自分が好きになった恋愛は一回だけです。

【インタビュアー】

付き合った人とは付き合ってみてどうだった？

【たそ氏】

付き合ってみて、あっちにすごい好きだと言われていて、何か自分も好きだと思わないといけないなという感じがずっとあって。だから、もうあっちから「好きだ」みたいなそういう気持ちを伝えられるたびに困惑しているのを隠していて、「私も好きだよ」みたいな嘘を言っていたのですけれど、好きにならないといけないし、好きになったといったほうが楽だろうなとかと思ってそんなことを言っているうちにどんどん自分の整合性がとれなくなってきた、矛盾している気持ちとかが生まれてきてすごい考えすぎて病みましたね。

【インタビュアー】

それは思ってもいないことを言い続けてるといふ。

【たそ氏】

そうなのです。本当は家に来てほしくないとかも思っているけど、家に遊びに行って良いみたいなことを言われて、家に来てほしくないと思ってい

でも“ああ、でも昨日好きって言っちゃったしな”みたいな。そういうよく分からないようなところ。言っちゃったことに対して責任を持たなきゃみたいな気持ちも結構出てきちゃって、どんどん自分の中で重たい感情が出てきちゃって“ああ、やっぱりダメだな”と思いながらも、好きになれるかもしれないと思うと結局一年ぐらい付き合った感じですね。今考えると結構我慢の一年。我慢しなくてよかったのですが、我慢して、別れ話をするときとか、「前好きと言っていたのに何で？」みたいなことを言われることとかも結構あったし、あのときも好きじゃなかったとかはさすがに申し訳なくて言えないしなとか、そういうことを思っていると全然別れ話が進まなくて、全然別れられなかった。あっちも悪くないのですが、難しいなと思って。

【インタビュアー】

付き合っている間、結構セクシュアリティを考えざるを得ない。

【たそ氏】

そうですね。やはりあっちから告白されて好きと言われて、自分はゆっくり好きになって来るタイプだからゆっくり時間をかけたらあっちのことも好きになるのかなとか思っていたのですが、デミセクシュアルというセクシュアリティ的に。あっちが好きって言ってくれている訳だし、自分もゆっくり時間をかけてだったらと思っていたのですが、そうじゃないのだから。自分も好きになって、そこからゆっくり進んでいくのだとかそういうことを考えましたね。そう苦しい恋愛を通してそう思いましたね。少し申し訳なかったですけど、あっちには。

でも、告白されていて多分好きになるということ、多分ないように気がするなって。そのときは本当に全然好きにならなかったのですよ。

【インタビュアー】

周りから恋愛に関するプレッシャーとかは。

【たそ氏】

いや、ありましたね。というか、今もありますし、そう周りからのプレッシャーもあるし。社会人になってみて「付き合っていた人はいるの？」みたいな質問されたときに、「1 人います」と言えることが結構ありがたい(笑)。申し訳ないけど。

何となく、付き合った人はいませんというのが割と言にくい感じになっている。コイツ喋りにくいなと思われるのではないかと思ってしまうている自分がいて、かといってそのときのエピソードをポジティブに話せるほど私はもっていないにもかかわらず、元彼が 1 人いますと言う。何かこう事実だけを言っているみたいな状態ですね、今は。

<恋愛に関する話題が出るとき>

【たそ氏】

私結構空気読むタイプだから、浮くぐらいだったら嘘付いても合わせるみたいなそういうことを考えちゃうタイプだから、あまり浮いたなどは思わないんだけど。

でもそう思うとやはり恋愛の話とかすると難しいなって。やはり好きなタイプとか、結構難しい。優しい人が好きとか無難な答えとか言えないし。でも本当にそうなんだよなみたいな感じでは思ってますね。最近タイプについてはすごく考えています。

タイプは分からない。“1 人だよ、だって”と思って考えているのですね。でも恋愛の話があまりいっぱいある時には、それこそカミングアウトという選択肢を取っているし、ない時は少し心苦しいけど、全然嘘を付いているという感じですかね。あまり嘘を付きたくはないからあまり恋愛の話ししたくはないのですけどね。

【インタビュアー】

それやったらいっそのこと全然恋愛の話が出ないままやり過ごせるほうが良い？

【たそ氏】

そうですね。恋愛の話が出ないままやり過ごせるほうが良い。

【インタビュアー】

それか配慮のある恋愛の話が出来るかどっちかね。

【たそ氏】

そうですね。でも説明しにくいというのもあるのですよね。自分のセクシュアリティが。流動的というかその時にしか分からないみたいなところもあるし、好きになった人の数がそもそも少ないから、そう思っているのだろうみたいなことを言われたら少し答えられないくらい。納得していないところもまだあるのかなって思ったりしますけど。

<大学時代の LGBTQ+ コミュニティ>

【たそ氏】

カシスですね。カシスは自分がもしかしたら、女の子のことが好きでレズビアンかもしれないと思っている時に、「関学 LGBTQ」みたいなことを調べたタイミングで、多分入学の前だと思うのですが、そのタイミングでカシスのことを知って、そこから入ろうと思って確か4月、5月時点の1年のすごいめちゃ早いタイミングでカシスに入りました。そのあとから色々な先輩と仲良くさせてもらって、最初はその時に幹事になると思ってなかったですけど、いつの間にか幹事にもやらせてもらえて、色々な人と出会えて、私は結構入って良かったなどは今思えば思ってますね。

こんな事言うのもあれなのですが、そのカシスの中のイベントというよりカシスで仲良くなった先輩とかと個人的に喋った時のほうが、何というかカシスにいて良かったなと思ったのが大きいかな。カシスの活動自体では限界があるというか、その全体で喋る感じとかだけでは喋れないこともいっぱいあるし、その先輩とかと遊んだ時に自分のその恋愛の悩みとか

そういうことを全部伝えた時に、共感もしてもらえたし、理解もしてもらえるみたいな。そういう状況が今までなくて、カミングアウトしても「へえそうなんだ」「そういうセクシャリティもあるよね」みたいな感じで会話が深まることなく終わってたことばかりだったから、自分の言いたいことが全て受け入れてもらえるのだなという環境に出会えたのは結構大きかったかなと思いますね。そのカシスが作ってくれたというと大袈裟なのですが、カシスで出来た人間関係は良かったなと思いますね。

【インタビュアー】

幹事としてやりがいとか楽しさはあった？

【たそ氏】

他の大学の LGBT サークルの人と交流するイベントですね。それは幹事同士で話し合いしてこういうグラドルールを作ろうとか、こういうふうにイベントしたら、もしかしたらそのセクシュアリティについて話すきっかけ作りになるかもとか、そういうことも考えて企画するのは結構やりがいがあったし面白かったなと思います。

あと、サークルの中でさえあまりセクシュアリティの話って触れていいのかというみたいな感じがずっとあったから、そういう大きいイベントの機会で、「そういうセクシュアリティだったんだね」みたいな、「そうだったんだ」みたいなそういう話を出来るタイミングになっているというのが結構良かったかな。そういう大合同が面白かった。やりがいがあったかなと思います。幹事もやっている時は、出来るだけ当事者の関学生の居場所になればいいなと思いながらその企画を考えたり、やっているつもりではいました。

<就活>

【たそ氏】

就活自体には苦勞したけど、セクシュアリティとかは関係ないですね。親に言うとか言わないとか、そういうことでトラブルは起きたけど。

【インタビュアー】

会社はサークルの話をしてどうだった。何も触れて来ないとか、あえて全然聞かないとか。

【たそ氏】

いや、そんなことはなくて、私の受けた会社は結局全部触れてきていた気がする。

「このサークルではどんなことされていたのですか？」とか、「このサークルで学んだことは？」みたいな。本当に全然他の学生が力を入れたこととかに書いている内容と全く同じような感じに質問されたので。

全然それで落とされたという感覚もないし、他のサークルの人にも聞いてみてもそうだったから、やはり別にそういうところの教育、人事の教育は、ちゃんとされているところが多いのだなと私は思いましたね。

あとはこんなこと言うのはあれですけど、あまり会社で自分のセクシュアリティをカミングアウトしていないし、そのあまり当事者ですみたいな顔をせずに言ったっていうのもある。これだと当事者だと思われちゃうかもしれないでしょうみたいなことを言うてくるぐらいなので、若干当事者扱いけど、でも当事者でもない人でも書ける文章を書いていたのですね。何かどっちとも読めるみたいな。

【インタビュアー】

自分が不用意にカミングアウトしなくて、かといって会社側がどんな反応するか見れる。

【たそ氏】

そうです。そういうことをやっていた。

<社会人生活>

【たそ氏】

会社の人には結局今も言っていないし、あまりそんなに日常生活でセクシュアリティのことですごく苦勞していることがある訳じゃないから、これからも別に言わなくてもいいのかなとは思っています。

【インタビュアー】

何かきっかけがあれば言うかもしれんかな？くらい。

【たそ氏】

ですね。今喋ってもいいのかなと思っている人も居るのですが、でもきっかけがあればくらいですね。自分のほうから折り入って話があるのですがみたいな感じではない。

【インタビュアー】

職場でカミングアウトするタイミングが難しいからね。

【たそ氏】

ですね。本当に。同じようなオーラを感じる人には言うかな。

言わないに越したことはないのかもしれないと思いますけどね。すごく悩んでいる訳じゃなければ。

【インタビュアー】

職場では特に恋愛の話とかも出ず、仕事の話がメインという感じ。飲み会とかはあまりない？

【たそ氏】

あまりないですね。

仕事の話。たまに恋愛の話になるけど、多分よく飲む人は私以外男性

だから、あまり触れちゃいけないのかなとは、あっちも思っていると思うので、出てない。ありがたいことです。

<社会人になった後の LGBTQ+コミュニティ>

【インタビュアー】

大学卒業して社会人になってからは、関西の土地を離れていった訳ですけれども、今のところ登場人物は職場の人ぐらいしかないのだけど、他にこっちの世界とかね、繋がりとかはどうなの？

【たそ氏】

向こうでレインボーパレードがあった時に、パレードやっているとって飛び入りで参加して、その時に LGBT サークル代表者さんと繋がって。その代表者さんが紹介してくれた当事者のみの交流会みたいなのに行ったのですが、その代表者がすごい場回しも上手いし、話も傷つけないような言葉選びで喋るし、でもすごい丁寧な言い方で、初めて行ったのですが、すごい上手いこと回してくれてめちゃめちゃ楽しかったですね。

自分の話したいことっていうテーマと、参加者に質問したいことみたいなのを書く紙が配られて、その紙にその項目を書いて代表さんに渡して、それをシャッフルして配って、その会に来ている皆に共有して進めてゆくという感じだったのですが、なかなかやりやすかったですね。風通しがいい感じがして、私は。

居心地の良い感じの会にしようときれているのだなというのがすごい伝わりますね。ルールとかもしっかりしていたし。いい場所でしたね。

今後も行くとおもうのですがね。少し場所が遠いなという個人的なものなのですが、でも場所が近かったらいきます。

<カミングアウトに対する対応・どう接してほしいか>

【たそ氏】

今の友達もそうなのですが、私の場合は特別にこうデミセクシュアルというセクシュアリティの人なのだという感じで扱われるのは少し何か違うのかなと思っていて、本当に私の場合なのですが、自分の中でこう完全にデミセクシュアルというセクシュアリティが固定化している訳ではないと思っていて。今まで人を好きになったことがまだ1回しかないしということもあると思うのですが。だからデミセクシュアルということは何かあまり人が好きにならないということだしという感じで。

デミセクシュアルと思われてどう思う？みたいな感じでデミセクシュアルの代表みたいに求められると少ししんどいかもしれないので、私の友達みたいに普通に恋愛の話をただ振らないでくれるだけでありがたいですかね。普通に恋愛の価値観の1つとして、聞いて欲しいくらい。

【インタビュアー】

周りの人が普通にそれぞれ恋愛の話をしているのは別に構わない。

【たそ氏】

そうなのですよ。

【インタビュアー】

それは押し付けられるからしんどい。

【たそ氏】

そうなのですよね。私が発言するだけで終わってくれれば、「へえ、そうなんだ」くらいで終わってくれる状況が1番好ましいかもしれない。あまり聞かれてもちゃんと答えられないけどという感じですかね。求める対応はそんな感じかな。友達にはだいぶありがたいなと思います。

【インタビュアー】

普通に接してくれる。

【たそ氏】

そうなのですよ。

【インタビュアー】

デミセクシュアルのたそさんではなくて、たそさんの中にデミセクシュアルなところもあるという感じだね。

【たそ氏】

そうです。恋愛の話を通じて何にも触れて来ないとかそういうこともないし、だいぶフラットに接してくれているのだなという感じがしますね。うん。それがありがたいかな。

<メッセージ>

【たそ氏】

流動的なセクシュアリティについては、自分も良く分かっていないことが多いし、説明しても自分も良く分かっていないというのもあるし、理解しきれないことも多いと思うので、伝える時は吟味をしてこれからの関係性とか、そういうことも吟味して伝えないといけないなということは伝えておきます。現役生というか当時の自分へのメッセージになるのかな。

以上